

デジタル社会への先導役としてさらなる飛躍を誓う

～設立30周年記念講演・交流会を開催～



会長 長坂 正彦 氏

一般社団法人山梨県情報通信業協会（長坂正彦 会長/68会員）は、6月13日にベルクラシック甲府で設立30周年講演会・交流会を開催し、山梨県DX・情報政策推進統括官をはじめ甲府市長ほか多くの来賓と会員など120余名が参加し盛大に行われた。

当協会は、ICT（情報通信技術を活用したコミュニケーション）事業や電気通信放送事業など幅広いインフラ分野の事業者によって、前身となる山梨県情報サービス産業協会が平成6年に設立された。

平成15年には山梨県情報通信業協会に名称を変更、以来デジタル人材の育成・採用環境の整備や先進技術習得のための視察・研修会の開催、デジタル技術を駆使した社会的課題解決などに取り組んでいる。

記念講演では、山梨大学地域植物化学科ワイン科学研究センター教授 柳田藤寿氏による「最新の日本ワイン事情と商品開発について」をテーマとして講演を実施した。参加者は山梨が有する地

域資源の魅力を再確認するとともに、今年10月に全国地域情報団体連合会との合同で山梨県初開催となる全国大会に向けて士気を高めていた。

交流会は会員企業同士の近況報告や情報交換など、盛会に開催された。長坂会長の挨拶では、当協会が設立30周年を迎えられたことへの感謝とともに「情報技術の進歩によって巧妙化するサイバー攻撃への対応や、情報通信サービス・ソフトウェア産業の構造を転換するような技術革新に対応するために、県内産業の垣根を超えて他業界や産学官連携を強化して協会活動の幅を広げていく。会員同士で切磋琢磨しながら、当協会や会員がデジタル社会への先導役となり地域経済発展のために

邁進していきたい。」と将来への決意を語った。



交流会の様子



担当:宮川